



楓の森アップデート3



合志市立合志楓の森小学校
学校だより 第8号
令和7年7月10日(木)
文責:校長 佐藤 政臣

○校訓 「志高く 道を拓く」

○学校教育目標 「夢を持ち 自ら考え よりよく行動できる児童の育成」

人権月間の取組 縦割り人権集会②

～ 小5 から中3 の縦割り～

「人権教育のための国連10年」を定めた国連総会の決議では、「人権教育は、単なる情報提供にとどまらず、あらゆる発達段階の人々、あらゆる社会階層の人々が、他の人々の尊厳について学び、またその尊厳をすべての社会で確立するため、生涯にわたってその方法と手段を学ぶことである」と述べられています。

人権教育は、学校の教育活動全体を支える基盤であり、「すべての教育活動の根幹」となるものです。

本校では人権月間の取組として、「縦割り人権集会」を行っています。今週は、小5～中3までを縦割りにして三つのグループに分けて行いました。以下にその内容について述べます。

5年生は、「なごごて腹んたつ」という教材を学習し、教材の内容と自分自身を重ねて考え、発表しました。いじめや差別は、決して許されないことだと強く学ぶことができました。発表後、「つらい思いをしている人がいたら、『だいじょうぶ』と声をかけるなど、行動していきたい。」などの感想が発表されました。



6年生は、「ぼくの名前はあおいです」という教材を学習しました。あおいさんは、生まれもった性と心の性が違う子どもです。自分らしく生きていくことの大切さを学びました。またそのことから、「困っている人には、寄り添う気持ちが大切である」などの感想が発表されました。



中学1年生は、「今、海が好き、水俣が好き」と題した水俣病問題を学習したことについて発表しました。水俣病に対する偏見や差別の愚かさを学び、正しく学ぶことの大切さを実感できたようです。「差別に立ち向かうなかまになっていきたい」などという感想が聞かれました。



中学2年生は、「ハンセン病差別に生きる」と題したハンセン病問題を学習したことを発表しました。そのことから、ハンセン病問題の学びから身近な差別をなくしていきたいと考え、クラスの現状と課題について考えたことを発表することができました。「講師の中さんが『正しい知識を広めてほしい』と言われたという言葉が印象に残った」などという感想が発表されました。



中学3年生は、「なぜ、高校に行くの?」と題した進路学習。高校の優劣を偏差値で決めてしまうという世の中の風潮があります。偏差値が低い高校を馬鹿にするなど、高校に対する偏見や差別があることに気付きました。

「偏差値の高低ではなく、自分にあった高校を選びたい」という思いや「それぞれの進路、それぞれの人生を応援できるクラスにしたい」という思いを発表しました。

